

施設の短期中期のサービス向上への取り組み

1. 社会福祉法人として、利用者の満足を追求する。
相談機関として、まずは利用者の気持ちに寄り添う。そのうえで、抱えている課題を適切に評価し、支援に結び付けていく。
社会資源に関する豊富な情報、連携機関との良好な関係、それ等をひとつずつ丁寧に、意識的に積み重ねていくことにより、利用者の利益に結び付ける。
2. 社会福祉法人として、家族支援・地域支援の拠点となる
相談センターに寄せられる相談内容には、さまざまな家族の課題や、家族の関係性が複雑に絡み合っている場合も多い。それを解決に導くためには、家族支援の目線で複合的に関係機関に働きかける必要がある。常に、俯瞰的に課題をとらえることを考慮していく。
また、個別に現れる課題は、地域課題の表出であることを十分に念頭におき、コミュニティー・ソーシャルワークへのアプローチも積極的に行っていく。
3. 社会福祉法人として核となる職員の定着・安心の実現
地域包括ケア体制の中で、地域の多様な課題を解決し、地域支援をしていくためには、これまでの時代とは違ったあらたな相談スキルの上乗せが求められている。相談援助技術の向上により、相談員としての力量を高め、地域に貢献するとともに、人材の確保と定着につなげていく。
4. 社会福祉法人としての経営体制の確立
高齢者あんしんセンター神田、かんだ連雀、岩本町ほほえみプラザとの、支援・連携関係をこれまで以上に強固なものとして確立し、地域支援体制の中で当法人かんだ事業所の位置付けをさらに不可欠なものに高めていく。それにより、経営体制が確立されていくことを目指す。

施設の取組

1. 関係機関との連携
千代田区の高齢者総合相談窓口として、千代田区社会福祉協議会、九段坂病院、自法人サービス提供事業所、他事業所、警察等の、多くの機関と連携し、多岐にわたる問題を解決に導くネットワークを形成していくことが求められている。実務の執行にあたっては、独立した相談機関であることを念頭に、関係機関と十分な協議を行い、利用者の権利と利益を擁護していく。
2. 地域支援体制整備
長期的視野に立ち、地域住民を側方支援する立場で、そのニーズを満たす方法を検討し、関係機関とともに地域支援体制を創りあげていく。
3. 相談員の持つ個々の専門性を活かした支援
年々、多様化、複雑化している相談内容に対して、今後ますます求められてくるのは「総合的に対応できる力」である。相談センターでは、相談員の持つ個々の専門性を活かし、お互いの専門性を共有して学びあう機会を計画的に積み重ねていく。